

夏休み

母の実家のおばあちゃん家に
遊びに来た。

磯から少し上がったところに
謎のボロ小屋があった

貧乏くさい家が並ぶ漁村で
海以外にはなんにもなかったが
僕にはあらゆるものが珍しかった

探検のつもりで覗いてみると



おま
ださん かんごごめ
子か

こっちは
初めて見たお母さん以外
大人の女の裸

初めて見たお母さん以外の
大人の女の裸


こっちはいい

とこころしや
たげりあ

はじけるような肉体
日焼けした肌
生々しい本物の女

息が苦しくなるほど
心臓がドキドキする


こんなに胸を締めつけられるのは
なぜだろう



もう少しで乳首が見えそうなのに
隠そうともしない


見てもいいのだろうか……

でもそれどころではない



チンチ〇がじんじんして

それが恥ずかしくて、
バレやしないかと
気が気ではなかった



でもきっと、
バレてたんだと思う

きん強してるんか



耳元にささやかれ
頭に血がのぼった

おんた
おんた
おんた

えんやご
果のやんご



乳首見えた!



頬っぺたがちりちりする

のぼせる

目が回りそう



女の体が迫る

どうしていいかわからない


ただ衝動がこみ上げる



この女にむしゃぶりつきたい


胸を揉みたい

体をこすりつけたい




ああ……

これがおっぱい!!



指が吸い込まれそうな柔らかさ



指の間からこぼれそうな重み

この感触をもっと全身で味わいたい!

海の匂いがする

ちんちん固まってきたか?

もてあますほどの大人の体

身持ちなんやろ

圧倒的な女体

腰の動きが
いやらしいなっ♡

おチンチンがすごく気持ちいい

もっとこすりつけたい!



もうなにも考えられない

どんどん気持ちよくなる——

抗えない衝動に否応なく
押し流されていく——

この後どうなってしまうんだろう——



おじ
おじさん

おーい
おるか?

あれ?

なにこのおじさん……?

お、ほん
見かかん子やな

ほら
たきえちゃん
とこの

おー

お婆さんは
おっばい隠さなくていいの?

今日はあがりか?
体冷えてるから
わしがあつたの
たろ

おんもう

子供が見て封かん

お

なにしてるのこのおじさん?

なんで普通におっぱい揉んでるの?

僕とお婆さんの時間を
横取りして——

当たり前のようにHなことを
してるのはどういうわけなの?



(ぼんはきう) 帰

お母さん
心配してるよ



追い出された



このままでは帰れない

まだ帰ってはいけない気がする

お、お母さんはおげんじの
おれもさあな
おれんのび子

中途半端なところで邪魔されて
心も体ももやもやしたままだ

網が海中小屋上
1Kのを見つけ
後を尾けてきた
蛇のステアガキ共




見届けるのだ



お婆さんがどうなるのか

僕とお婆さんが
ほんとはどうなっていたか——





いつの間にかおじさんも
裸になっていた

裸で抱き合い、
日焼けした肌を合わせ

こんな不細工でむさくるしい
おっさんに抱かれて……

でもお婆さんは少しも
嫌がっているようには見えなかった



初めて見る大人の情事

おばさんは僕が触っていた時とは
まるで違う顔をしていた

いったいどうやれば
あんな顔をさせられるのだろう



ん

ん

これが女?

ん

なんと破廉恥な——

女の本性——

ん
ん

ん!!

ん
ん

ん

ん

ん
ん

ん
ん

でも目が離せない——









もう
辛抱たまらぬ



細腕の二女
もう大い子



まだあかんて
できる男は指さす
十分世を仕すん

あま
+



んを+あたら

ん

んあかん

んんんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んん

んん

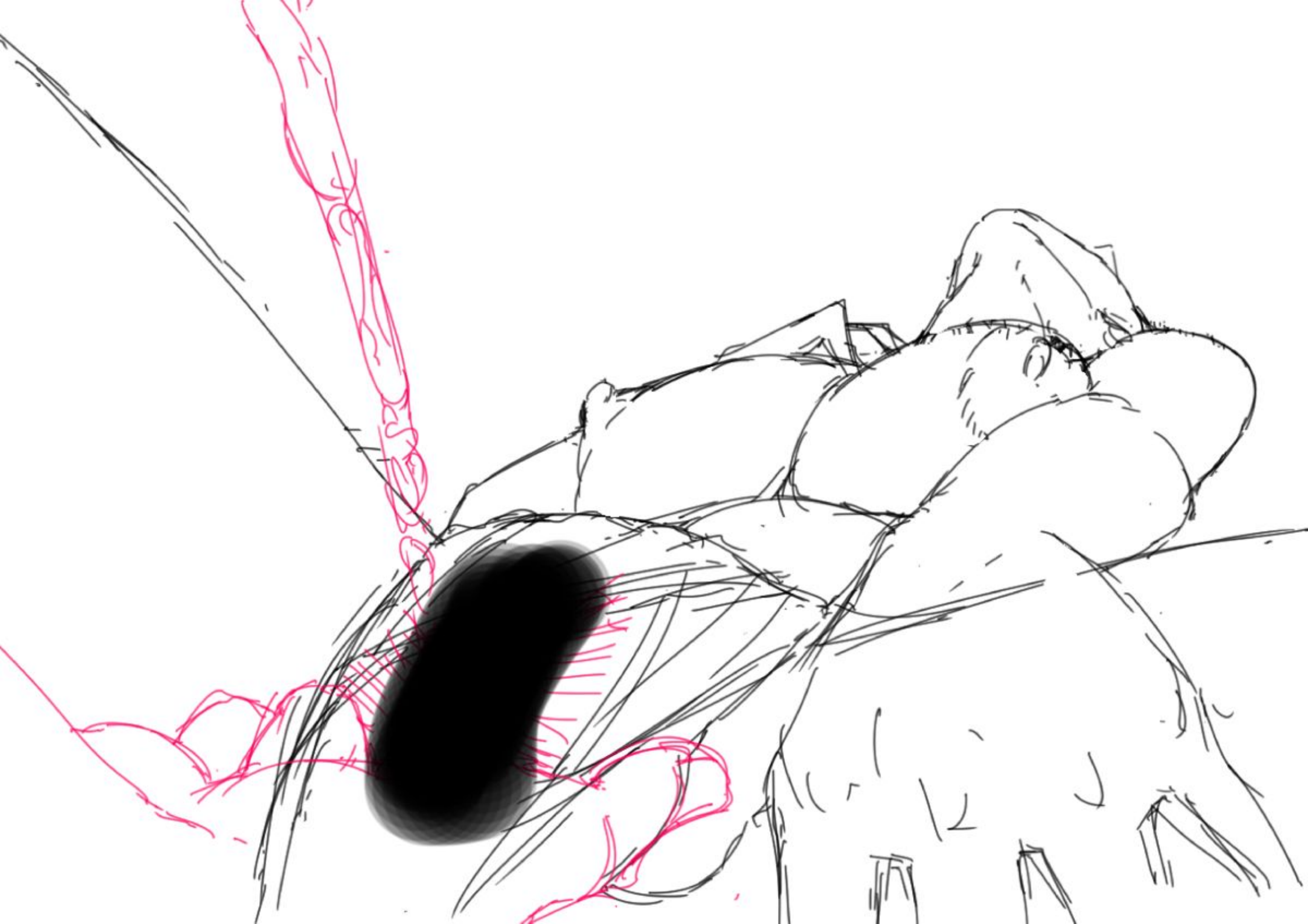
んんんんんん!

んん

ん

ん







143h

アカン

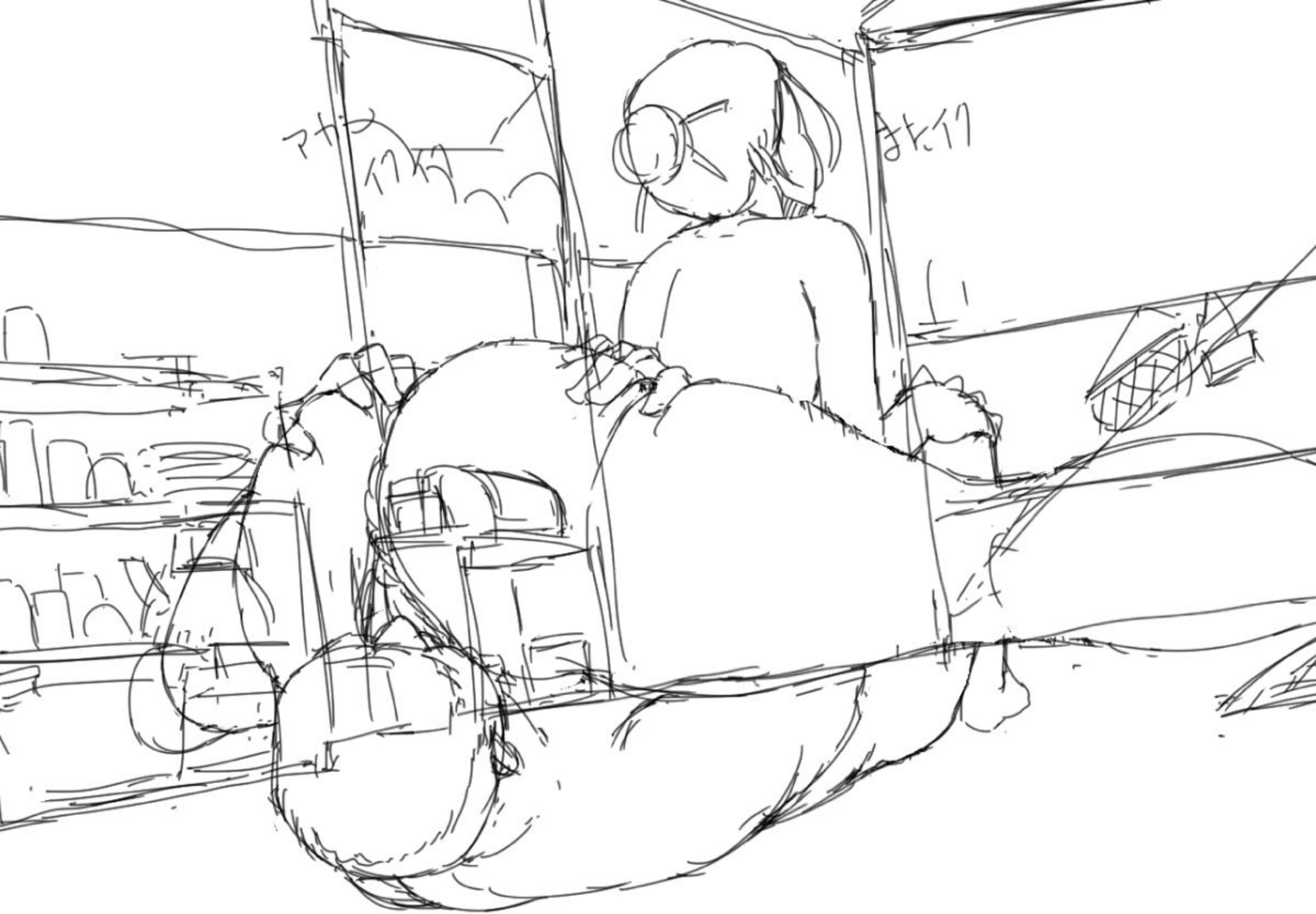
アカン



ア

アカンアカンアカン

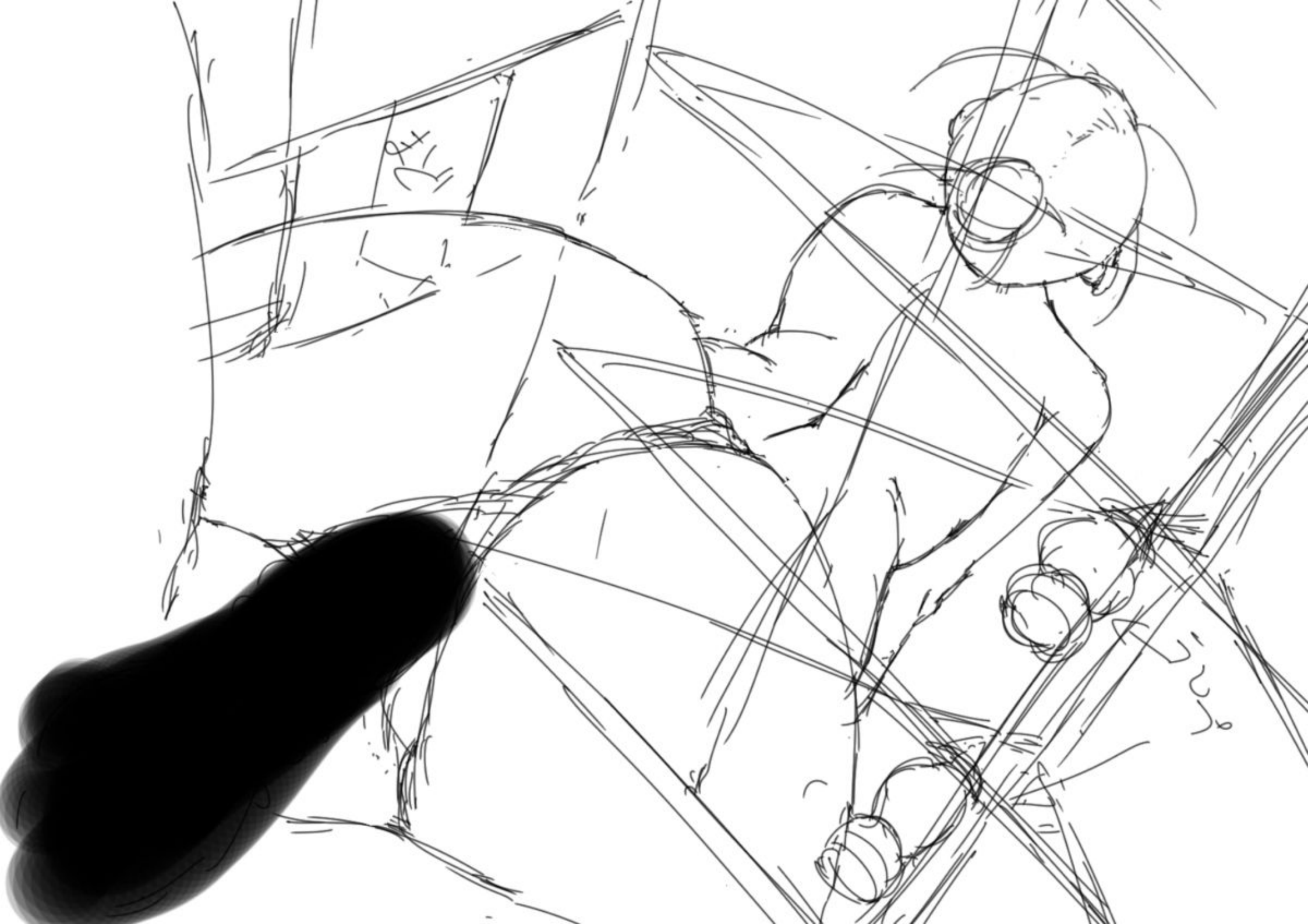






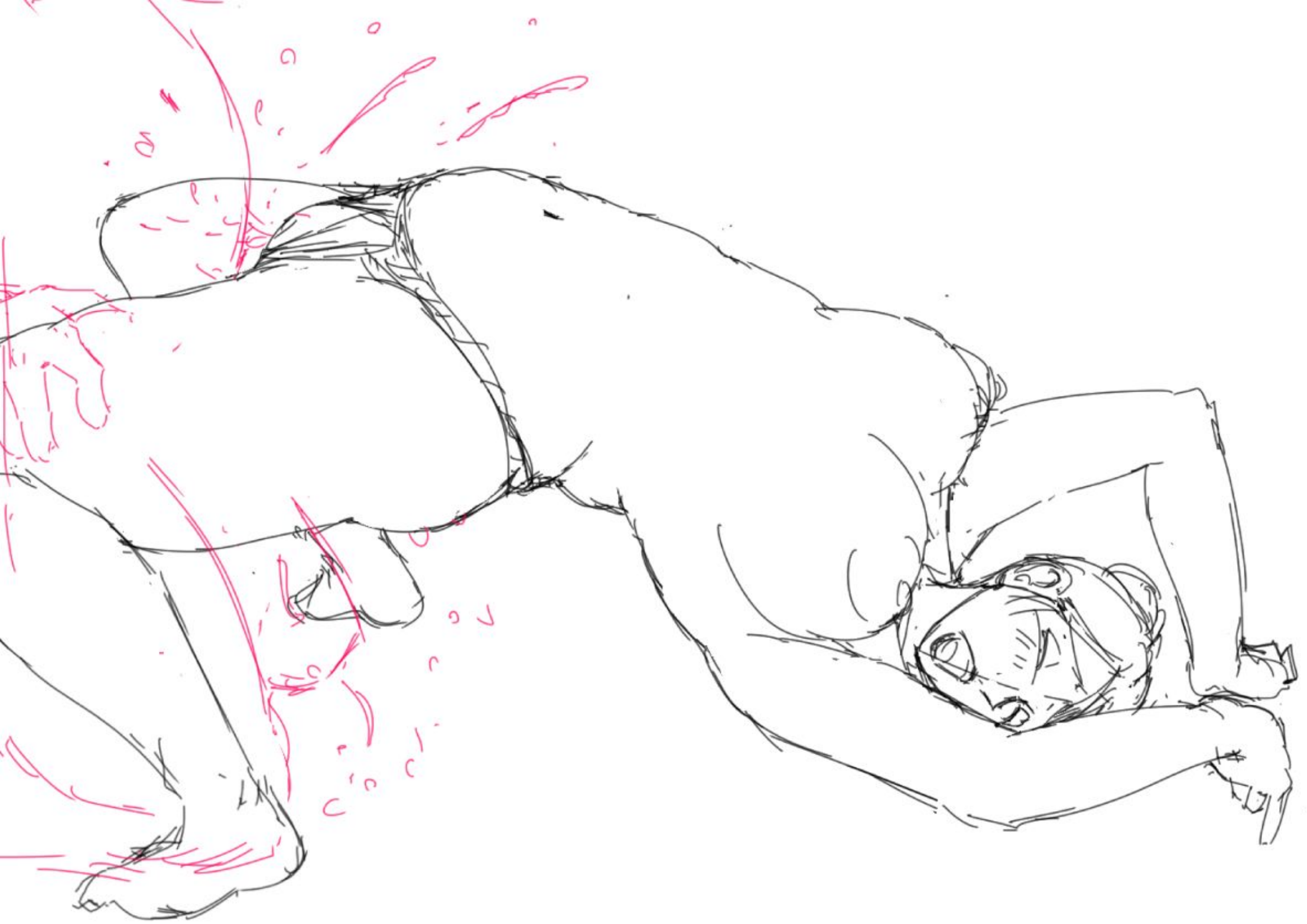
えー
イグサ

ハッ







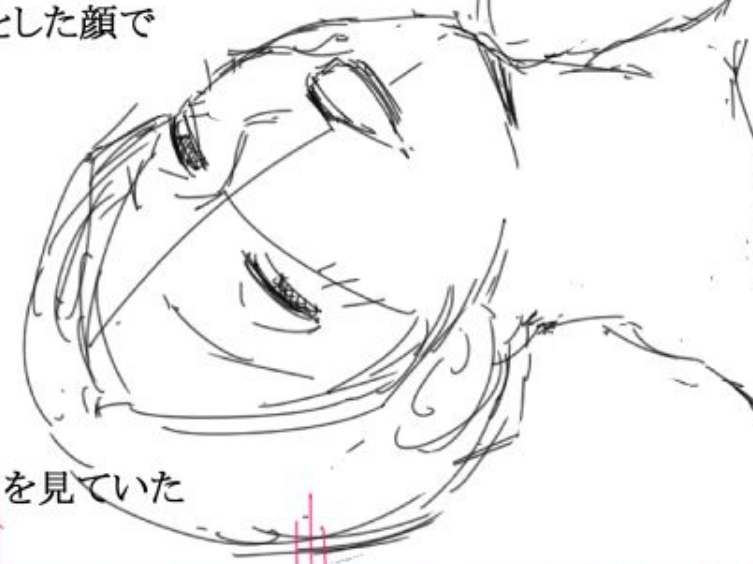






おじさんが離れた後も、
お婆さんはまだひくひくしていた

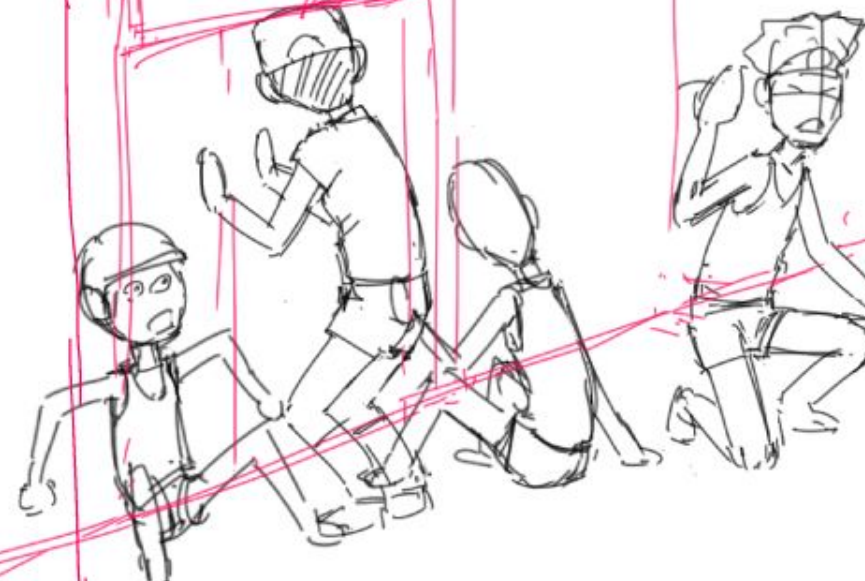
恍惚とした顔で



こっちを見ていた

きっと僕らが覗いていることにも
気づいていたのだろう

快樂の余韻にひたるかのように



この日、
僕らは親友になった

